

## 第2回 広報 市民リポーター だより

今回は、島内リポーターが中央図書館を訪ね図書館の効率的利用について、若松リポーターが大館広域環境センターを訪ねて、ごみ処理とごみのリサイクルについて、それぞれリポートしました。

# 図書館の効率的利用法

リポーター 島内 国男(大町)

高齢化社会、生涯学習時代と言われている中で、市民各層の広範、多彩な学習ニーズにこたえる図書館の社会教育的効用と使命は、ますます大きくなるものと思われま

す。今回は中央図書館を訪問し、利用者が必要な図書を効率よく探すにはどうすればよいかをテーマにリポートしました。

現在約十二万冊を蔵書している中央図書館。整理された各書架をゆくり巡ってみるのは、たいへん夢もあって楽しいものです。反面、時間的に余裕がなく必要な図書を探し回るときは、助けも欲しくなります。

分類目録を活用しては蔵書は、十類目に分類し、次

に一類目を十類目に、さらに一網目を十类目に分類し整理されています。そして図書には、一冊ごとに一枚のカードが作られているそうです。このカードは、図書分類目録として常にカウンターに調整されており、いつでも通覧することができま

### 司書のアドバイス

図書館には、図書館法で定められた専門職員「司書」が配置



島内リポーター(左)と村谷館長

されています。司書は、図書の収集、整理、保管や利用者の閲覧に関することなどを行っていただきますので、必要とする図書の利用目的を具体的に説明し、司書からアドバイスを受けることが一番早く効率的な利用法であると思われま

### 市民の書齋として

図書の貸し出し、移動図書館車ステーション網の拡充展開(現

## 牛乳パックは生かせないか？

リポーター 若松 京子(白沢)

ある新聞でこんな記事を読みました。「日本で一日に作られる牛乳パック九百万箱は立木約六千本分にもなり、婦人たちが牛乳パックを再利用するために回収運動を始めた。毎日大量の木が失われている事に大変驚きました。そこで私は、大館市のごみ処理とリサイクルの現状について知りたいと思い、大館広域第一環境センター(ごみ焼却場)を訪問しました。

### 砂で焼く!?

課長の木村さんにお話しを伺い、センター内部と作業の様子を見せていただきました。

一番驚いたことは、焼却炉の中で高温(七百〜九百五十度)

在六十カ所)、児童コーナー、ユニークな各種企画など利用者本位の運営に積極的に取り組んでおられる実状については、紙幅の都合で十分紹介できませんでしたが、職員の人たちのご努力に心から敬意を表したいと思

最後に、館長の村谷さんのメッセージ「中央図書館は、市民の身近な書齋。何でもお気軽にカウンターへどうぞ」をお伝えしてこのリポートを終わります。

## 牛乳パックは生かせないか？

リポーター 若松 京子(白沢)

に熱せられた砂が、激しく回転しながら一瞬のうちにごみを焼き尽くすということでした。ごみは、焼却炉に入る前に十センチメートル四方に砕かれます。

その際、固い不燃物が混じっていると、破碎機の刃が欠けるなどの故障の原因となります。実際、ごみと一緒に搬入された車のホイールキャップや鋏、金槌を見てびっくり。スプーンやナイフなど小さい物は毎日相当混じっています。また、スプレー

缶が入っていると爆発して作業員の命にもかかります。小切手などの貴重品をうっかり出してしまったと探し出すことも度々あるとのこと



若松リポーター(右)と木村課長

ごみは、燃えるものと燃えないものに分け、指定された日時と場所を守り、よく水切りをし、さらに貴重品が入っていないかを確認してから出すべきだと肝に命じた一日でした。

### リサイクルの現状

資源ごみ(古新聞・古雑誌、鉄くず、空ビンなど)の回収量は、町内会や子供会などの団体の協力や市の奨励金交付制度などもあり、十年前に比べ三倍に増えているそうです。しかし、私の知りたかった牛乳パック再利用の道は、現在大館にはないという残念な結果でした。

物を大切に使い、ごみを少なくするよう、私たちの意識も高めなければなりません。行政としても、過剰包装への指導や資源ごみを分別して集収するなどの論議を深め、早急に対策を講じられることを期待しています。

◇広報市民リポーターだよりは、毎月1日号で、6人のリポーターが独自に取材した記事を掲載します。